

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2020(令和2)年11月27日(金)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《懸け橋》

No. 33

発行:

人権啓発指導員

【大 楠 茂 美】

「ドン」…と、家の外から大きな音。11/22(日)20時過ぎのこと。「ドン、ドン、バラ、バラ…」という音が、小雨の夜空に響きます。雨戸を開けて、音の鳴る方を見ると、シュル、シュルと一筋の光が空に昇ってパーツと広がる、彩り豊かな花火。
「もう一発!…お願い、もう一発!!」と、つぶやきました。…コロナ禍が再び懸念される中であって、三連休中日の思いがけない心とむ10分間の「贈りもの」!! 届けていただいた方々に、心から感謝、感謝でした…。

その前日11/21(土)、福岡市早良区市民センターで行われた「北朝鮮人権侵害問題啓発講演会」において、ご家族のビデオメッセージとともに、拉致被害者の一人、横田めぐみさんの弟、拓也さんが『北朝鮮よ、姉を帰せ…!!』と題して、弟としての想いを、切々と語られました…

- 突然、不合理にも人の幸せが奪われ、人権が著しく侵害されるおかしさ!!
- 娘と二人、広い原っぱで寝転び、一緒に過ごせる喜びを娘に味わってほしいという母親の夢(願い)を叶えたい!!
- 切り裂かれるような想いを、強いられ続けている同じ日本国民がいることを知り、自分のこととして拉致問題解決に向けて、一緒に取り組んでほしい!!

そして最後に、「皆さんが各地域や職場に戻ったら、今日の話伝えてほしい。皆さんのご理解や支援の輪が国を動かす大きな「力」になります」と…!!

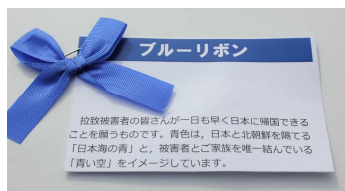


日本では北朝鮮に拉致された被害者として現在17名が認定されていますが、さらに、その可能性を排除できない者（拉致の可能性のある者）883名（2018年10月：現在）について、国内・外からの情報収集や捜査、調査が続けられているそうです。日本国内から、また、外国で拉致された可能性のある人が、全国に約900名余り（福岡市は5名）。

各家族や身内、友だちや知人、地域の人々との幸せな未来、が理不尽にも奪い去られ続けている出来事に対し、決して他人ごとではすまされないと痛感させられました。



部活を終え、自宅へ帰宅途中だった中学1年のめぐみさんは、自分の身に何が起こったのか考える間もないままに連れ去られ、叫べども届かない空しさの中で、過ぎさざる負えなくなった52年もの歳月…。ちょうど、めぐみさんと同年代の私にとって、言葉もありませんでした。



『拉致』という人権問題は、国と国との主権の侵害という難しさが、この問題解決を長期化させているという、他の人権問題にはない要因が…。

しかし、まずは、国や宗教、文化などの違いを超え、『すべての人が、幸せに生きるため、私たちの誰もが生命や身体、自由を大切にされ、人間らしく生きる権利を生まれた時から持っており、それを侵害することは誰も決してできない【**基本的人権の尊重**】』という理念（根本的な考え）に立ち返ってみることが大切ではないでしょうか。

拉致された本人の無念さは当然ですが、拉致被害者であるご両親などの年齢等を考える時、一刻も早い解決（帰国）…が待ち望まれます。私たちにできることは何なのか？…私たち一人一人の課題でもあります。

お知らせ

■ 『ニコニコひろがる！ ひまわりのはな運動』（2年目の取組）のパネル展示を開催します…!!

期間：2020（令和2）年12月1日（火）～12月15日（火）

場所：（東峰村）小石原郵便局、宝珠山郵便局

（筑前町）道の駅「筑前みなみの里」

（朝倉市）道の駅「原鶴」ファームステーション バサロ

※ コロナ禍や長雨等の大変な中、取り組んでくださった園児さんたちの笑顔と活動の様子、ぜひご覧ください!!



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2021(令和3) 年 1月 8日(金)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《^か懸^{はし}け橋

No. 34

発行：
人権啓発指導員
【大 楠 茂 美】

～ コロナ禍を生きる!!

働く女性の“声”から、人権を考える ～

今日から1都3県に緊急事態宣言(～2/7まで)が発令されましたが、一日も早い終息を願うばかりです。…感染拡大の不安とともに、生活の不安も抱えている今、昨年12月、NHKスペシャル「**コロナ危機、女性に今何が**」で、大きな影響を受けている女性の雇用が取り上げられました。…



昨年4月、緊急事態宣言が出された直後に、仕事を失った人は男性32万人に対し、女性は倍以上の74万人に上ったそうです。新年を迎えても、感染拡大がなかなか収束せず、飲食業やサービス業など女性の労働者比率が高い業種はとても深刻で、女性の雇用状況は男性以上に悪化しています。なかでも影響を受けやすいのが、『非正規雇用』で働く女性です。

総務省の「労働力調査」(昨年10月)によれば、正規労働者が前年同月から9万人増加したのに対して、非正規労働者は85万人も減少し、このうち53万人(62.4%)を女性が占めているという状況でした。

NHKのアンケート調査では昨年4月以降に解雇や休業、退職を余儀なくされるなど仕事に何らかの影響があったと答えた人の割合は、男性18.7%・女性26.3%で、女性は男性の1.4倍、昨年10月の月収が感染拡大前と比べて3割以上減った人の割合も同じように、女性は男性の1.4倍(男性15.6%、女性21.9%)という結果でした。昨年4月以降に仕事を失った人のうち、同年11月の時点で再就職していない人の割合は、女性が男性の1.6倍(男性24.1%、女性38.5%)に…。

こうした調査結果をみても、新型コロナの感染拡大が、女性の雇用に深刻な影響を与えていることが分かるとともに、雇用に関する諸問題(家事、育児、介護、DV、セクハラ、社会保障等)もまた、女性にとっての厳しい“生きづらさ”の要因につながっているのではないのでしょうか。

また、社会的に弱い立場に置かれた人たちや子どもたち、高齢者の方々にとっても、結果的（二次的）に、大きな生きづらさの波を被る当事者になっている現状があるのでは…!?

こうした状況が生じてくる背景には、男女共同参画が推進されている中にもあってもなお、男女の役割を固定的に捉える意識（男性は…、女性は…、こうあるべきと区別する伝統的な考え方や慣習、きめつけ意識等）が、依然として私たちの社会の中に根強く残っていることも、様々な差別を生じさせる大きな要因の一つになっているように思われ



…ます。

日本国憲法には、「誰もが人間らしく生きる権利をもっている」ことが謳われています。苦しいとき、厳しいときほど声なき声に心を寄せて、人間としての根っこにある『人権（人が人として尊重される）』について、私たち一人一人、真摯に考えることが大切なのではないのでしょうか…

お知らせ

■ 戦後75年『戦争の記憶』展を開催中!! です。
1945（昭和20）年8月15日の終戦から今年で75年。今では、戦後生まれの世代が日本の総人口の85%を占め、年を重ねる毎に語り部の減少や、戦争の記憶の風化が危惧されます。

世界では今、新型コロナ禍も含め、様々な人権に係る問題（人種、性の多様性、ネットでの誹謗中傷等）や、不安定な国際関係の中、改めて『戦争の記憶』を振り返って、他人ごとではなく自分の問題として、人権尊重の根っこにある平和のこと考えてみましょう!



東峰村（いずみ館）での様子

「大刀洗平和記念館（福岡県筑前町）」「知覧特攻平和会館（鹿児島県南九州市）」のご協力に感謝致します。会場及び期間は次の通りです。本日より、朝倉市で開催します。（※ 東峰村と筑前町は、終了しました。）

（東峰村）保健福祉センターいずみ館 2020（R2）.11.28～12.11
（筑前町）コスモスプラザ 2020（R2）.12.15～12.27
（朝倉市）朝倉地域生涯学習センター 2021（R3）.1.18～1.21

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2021(令和3)年 3月11日(木)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《懸け橋》

No. 35

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

『東日本大震災』から、10年。TV・ラジオ、新聞・雑誌、YouTubeなど、今、様々な視点から報道が行われています。そうした中で、…



西日本新聞：3.10朝刊
陸前高田市の「奇跡の
一本松」より…(9日撮影)

コロナ禍での、不安や怖さから見え隠れする
偏見や差別事象などの出来事を見聞きします。

今一度、『かけがえのない^{いのち}生命』の意味を、
自分自身のことと重ね合わせて考えることは、
今後を生きる上で、とても大切では…!!

約7万本あった松林の中で、ただ一本だけ生き残り、
いのちをつなぐ「希望の木」と言われました。…

ある ご夫婦の「3.11」から10年、 今、振り返ってみると…

あれから10年。あの時から、時間は止まったまま。大きなゆれの後、
自宅に戻り、子ども3人の無事を確かめた後で、気になる親戚の所に行き、
再び戻ってみると自宅は波にのまれていて、最愛の子どもたちが…。

3人のお子さんを失ったことを知った友だちは、自分のことのように
一緒に泣きながら、「絶対、あなたを一人にしない
から…!!」と伝えられたそうです。悲しみのどん底



にあったご夫婦は、この言葉に
どれだけ支えられたことか…!!

そして、今は亡き3人の子どもの
分まで…と、未来を担っていく子どもたちが、当時
のことを忘れず、安全・安心について考えたり、楽しく
集まって遊べるように地域行事のお世話をしたり、木
製の遊具施設等を作ったりする

など、人の輪を拡げる取組を続けられています。

遊具の横には三人のお子さんのモニュメントが、
元気に遊ぶ子どもたちを温かく見守っています。…



あるカメラマンの「3.11から10年、今、振り返ってみると…」



私は、TV入社1年目の報道カメラマン。あの日、地震が発生した14:46ごろ、ヘリ取材を担当する当番勤務だった。カメラ操作の練習中に、ドーンと下から突き上げられるような揺れに襲われた後、無我夢中で、被害を免れたヘリに乗り込み、混乱の中、離陸して、家や車などを飲み込んでいく「黒い津波」の、信じられないような映像を生中継することに…。

理解が追いつかず、離陸しておよそ50分後には、その空港にも3mを超える津波が押し寄せたそうだ。その場に留まっていたら自分の命も…。大切な人を失くした人、命をかけて救助に向かう人、そして、安全な所からカメラを回す…生き延びた自分、報道は、正しい事実・出来事を伝えなければいけないけれど、何が正しいことなのか、自問する日々…。地元に残って、寄り添い、できることをやりたいと2年後、退社を決めた。

ある時、全域が避難区域となっている一人の男性との出会いがあった。…いつになるか分からないが、戻ってきた人たちが、震災前から咲いていた桜が咲いていたら、ほっとされるだろうと、仲間と一緒に、川沿いの桜並木の手入れをされていた。こうした、地元の人たちの温かさが、『福島桜紀行』というドキュメンタリーを作るきっかけだった。何が正しいのか…今も、自分に問いかけながら、10年目を迎えている。



2011.3.11大震災から10日後のこと。ある中学校での卒業式で、卒業生の代表は、清書済だった答辞を書き換えて…



「本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、私たちのために卒業式を挙げていただき、有難うございます。…自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを、容赦なく奪っていきました。…辛くて、悔しくて、たまりません。…後輩の皆さん、中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友だちが、いかに貴重なものかを考え、愛おしんで過ごしてください。最後に、本当に、本当にありがとうございました。」(みやぎ学校安全基本方針より抜粋)

誰でもみんな、かけがえのない生命を生きています。そこから、**一人一人の人権の大切さ**の意味を、考えていきましょう!!